教育委員会の言葉

本日、めでたく卒業式を迎えられた皆さんに、埼玉県教育委員会として、お祝いとはなむけの言葉を申し上げます。

卒業は、人生にとって大きな節目であり、新しい世界へ羽ばたく出発点でもあります。今、皆さんは、高校生活を終えた満足感や達成感とともに、将来への希望や期待に胸をふくらませていることでしょう。この輝かしい門出の日に当たり、皆さんに、三つのことを申し上げたいと思います。

第一は、夢や希望を持ち、その実現に努力してほしいということです。

昨年、名城大学教授の吉野彰氏がノーベル化学賞を受賞しました。吉野氏は、充電可能な電池を小型・軽量化することに成功し、リチウムイオン電池を開発しました。この開発によって、携帯電話やノートパソコン、デジタルカメラなどの幅広い電気機器の小型化が実現しました。また、それまで電気のない所では使えなかったＩＴ機器が使用できるようになり、どんな場所からも迅速で正確な情報伝達と通信が可能になりました。さらに、リチウムイオン電池は、ハイブリッド自動車や電気自動車の電源としても注目されており、地球温暖化の対策にもつながる成果として高く評価されています。

受賞決定後、吉野氏は大学の講義において、成功の前に三度プロジェクトが実らなかった自身の経験から、「失敗しないと絶対に成功はない」と学生に熱く語っています。

吉野氏の言葉のように、皆さんも、自分の夢の実現のために積極的に行動し、粘り強く努力を重ね、自らの人生を切り拓いてほしいと思います。

第二は、互いに認め合い、共に高め合う人間関係を作ってほしいということです。

皆さんは、高校生活の中で、多くの人と出会い、学校行事や部活動などを通して、友人の大切さや、友情のすばらしさを実感していることと思います。共に喜び、感動し、時には苦悩や挫折に遭遇する中で、励まし合い、助け合う友人の存在は、人生をより豊かなものにしてくれるでしょう。

人間は、決して一人では生きていけません。多くの人との関わりの中で生きています。これからも、皆さんが進むそれぞれの道で、新しい出会いや多くの交流があることでしょう。人生をより豊かなものにするために、自分自身を大切にするとともに、他者をかけがえのない存在として認め、互いに切磋琢磨し、向上できる人間関係を作ってほしいと思います。

第三は、社会の一員としての自覚と責任を持ち、より良い社会づくりに貢献してほしいということです。

熊谷市の出身である荻野吟子は、日本最初の公認女性医師です。十八歳の時に結婚しましたが、不慮の病を理由に離婚、その病の治療の体験から、女性医師の必要性を痛感し、自ら医師になることを決意します。当時は、女性が医師になることなど考えられない時代であり、その道は閉ざされていました。しかし、吟子は、制度や慣習といった目の前に立ちはだかる大きな壁に対し、強い信念とたゆまぬ努力で立ち向かいます。女人禁制が当たり前だった医学校に男子用の袴と高下駄で通い、高額な授業料は家庭教師をしながら工面しました。そして、多くの師や友の支援と協力もあり、開業医としての試験に合格し、日本で最初の女性医師となったのです。その後、多くの人々の治療に力を尽くすとともに、女性の地位向上や衛生知識の普及にも努めました。吟子の功績は、我が国の医学界において今なお輝いています。生涯をかけて、人々のため献身的に自らの命を燃やし続けた吟子の生き方を学んでほしいと思います。

全ての人々が夢や希望を抱き、平和で幸せな生活を送ることができる社会の実現は、人類全体の願いです。そして、皆さんは、日本や世界の未来を創り出していく、まさにこれからの時代の中心となる存在です。皆さん一人一人が、社会の一員としての自覚と責任を持って行動し、一層の努力を重ね、それぞれの道で活躍されますよう心より期待しています。

結びに、校長先生をはじめ教職員の方々の今日までの御尽力に深く敬意を表するとともに、保護者の皆様や地域の方々、関係の皆様から寄せられました多大な御支援、御協力に心から感謝申し上げ、お祝いとはなむけの言葉といたします。

令和二年三月十日

埼玉県教育委員会